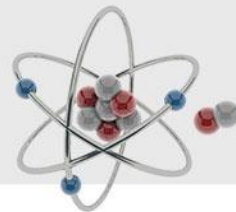




## ネットワーク班：進捗と展望

2022年5月19日 領域会議  
代表：榎原潤 (東洋大学)

# 研究分担者・研究協力者



## ■ 研究分担者

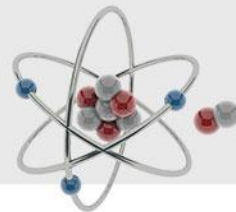
- 国里 愛彦さん (専修大学)
- 菅原 大地さん (筑波大学)

## ■ 研究協力者

- 竹林 由武さん (福島県立医科大学)
- 伊藤 正哉さん (NCNP)

※ 6月から、北原 祐理さん (東京大学) を「研究支援者」として  
雇用予定

# ネットワーク班のメイン研究



## ■ 心理療法 (UP) の詳細な作用機序を明らかにする

- 下記①～③の順に, 徐々に発展

### ① UP研究の質問紙尺度データの解析

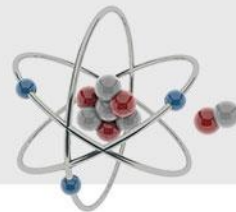
- UPが進むにつれ, どの症状がまず改善し, どう波及していくか

### ② 「各介入技法の実施状況」のデータを①に加えて解析

- 「各回, 各技法に何分程度割いていたか」のレベルで解析

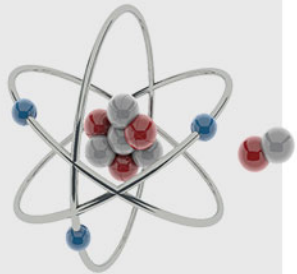
### ③ 音響班・自然言語班のデータを②に加えて解析

# ネットワーク班のさらなる野望

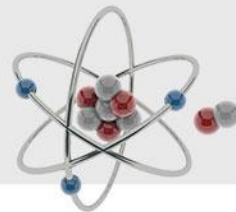


- 日本に「心理ネットワーク研究」という分野を根付かせ、世界でここにしかない知見を示していく
  - 人をどんどん巻き込み，1つのコミュニティとして育てる
- **いま稼働中の具体策として・・・**
  - 書籍2冊の翻訳
  - 学会でのシンポジウム・チュートリアル
  - Slackと勉強会で，科研費メンバー以外とも交流

# メイン研究①の進捗

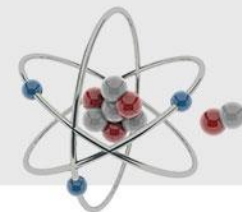


# 方法の概要

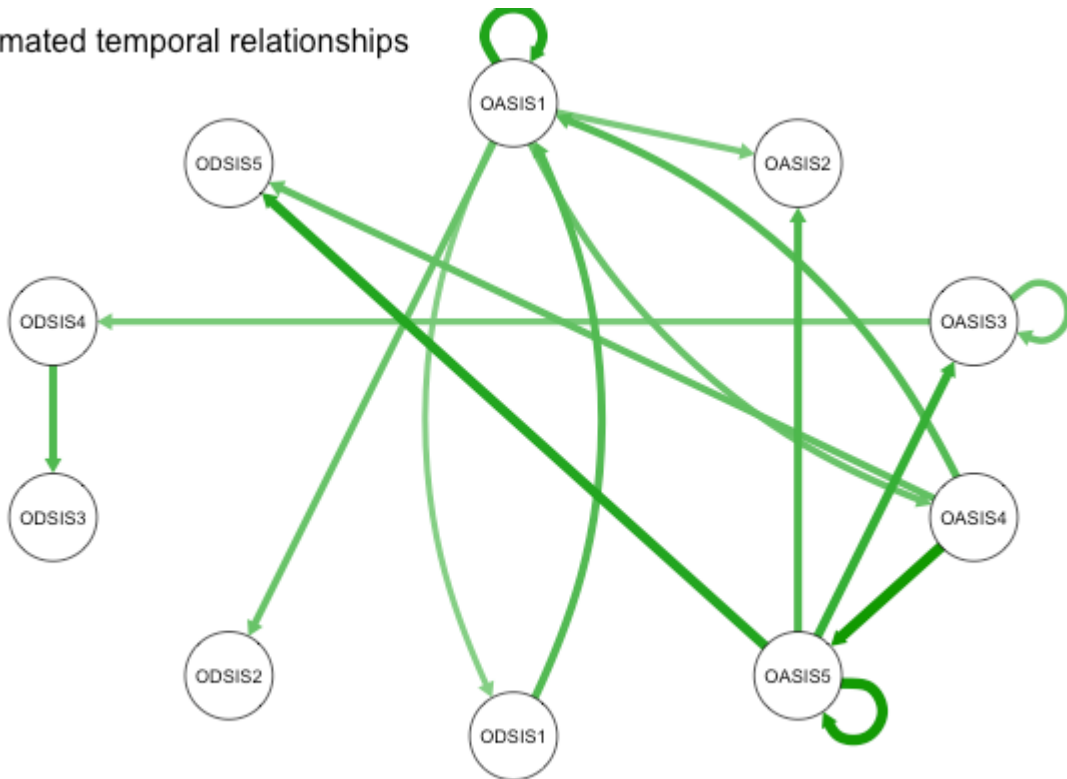


- **データソース：UPの患者データ**
- **解析対象の変数：うつ / 不安の重症度・機能障害の程度**
  - 質問紙尺度 ODSIS/OASIS で測定, 5項目ずつ
- **具体的な解析：複数の観点から症状ネットワークを検討**
  - 「治療中毎週測定したデータ」をもとに, Temporal Networkと Contemporaneous Networkを推定
  - 「UP群」「通常治療群」の「プレ・ミドル・ポスト」データをもとに, Cross-Sectional Networkを推定 → 比較

# 進捗：「毎週測定」データの解析



Estimated temporal relationships

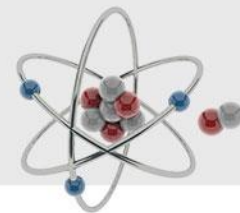


■ OASIS1 と ODSIS1  
(不安/うつ)の生起頻度  
の間できれいなフィード  
バックループ

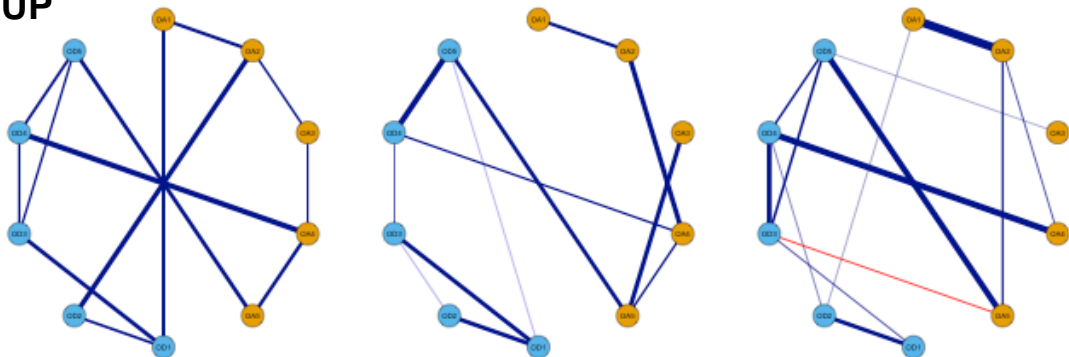
■ 「不安→うつ」はあるが、  
「うつ→不安」はない

※ 解析・解釈の途中で  
※ 統計モデリングの観点から  
は、「時点数の少なさ」が  
ネック

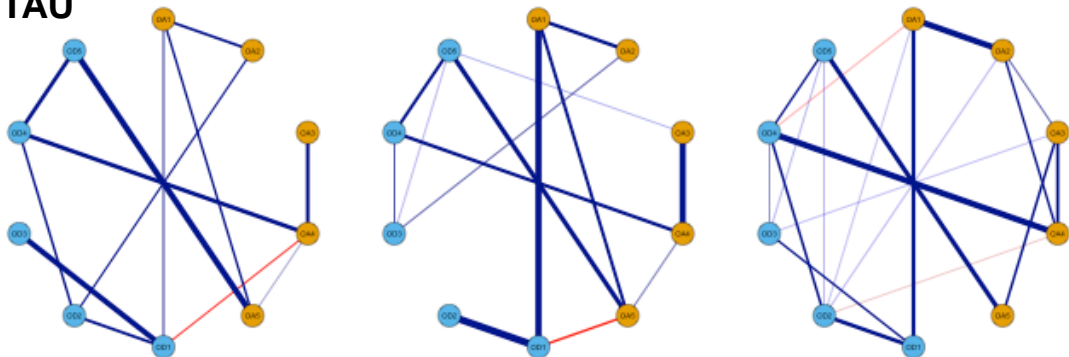
# 進捗：「2群・3時点」データの解析



UP



TAU



Pre

Mid

Post

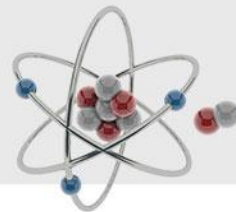
■ UP群でも、「密度のサマリー指標」上でははっきりした差を見出せない

■ 「OASIS1—ODSIS1のエッジが消失」「細かいエッジが増加」等の変化も

→ 項目や介入の内容を踏まえた丁寧な解釈が重要そう

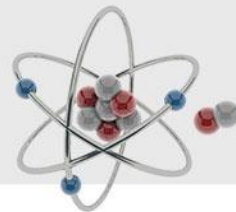
※ 統計モデリングの観点からは、「サンプルサイズの小ささ」がネック





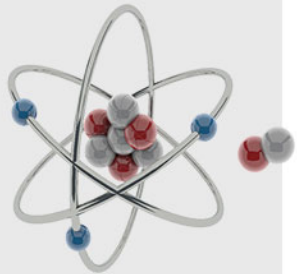
- 「統計学的な相場」と「臨床研究の相場」との折り合い
  - この分野でたたかう研究者たち共通の課題でもあると思うので、論文も書きつつ「折り合えるポイント」を探っていく
- 「ネットワーク解析の実践的ノウハウ」をさらに学ぶ
  - Network Psychometrics with R の翻訳が良い機会に！
- これらの課題解決が、メイン研究②以降につながるはず！
  - 「各セッションでの、各技法の実施状況」をコーディングしてもらった後、具体的にどうモデルに落とし込むか・・・など

# 他班・他領域とのコラボ？

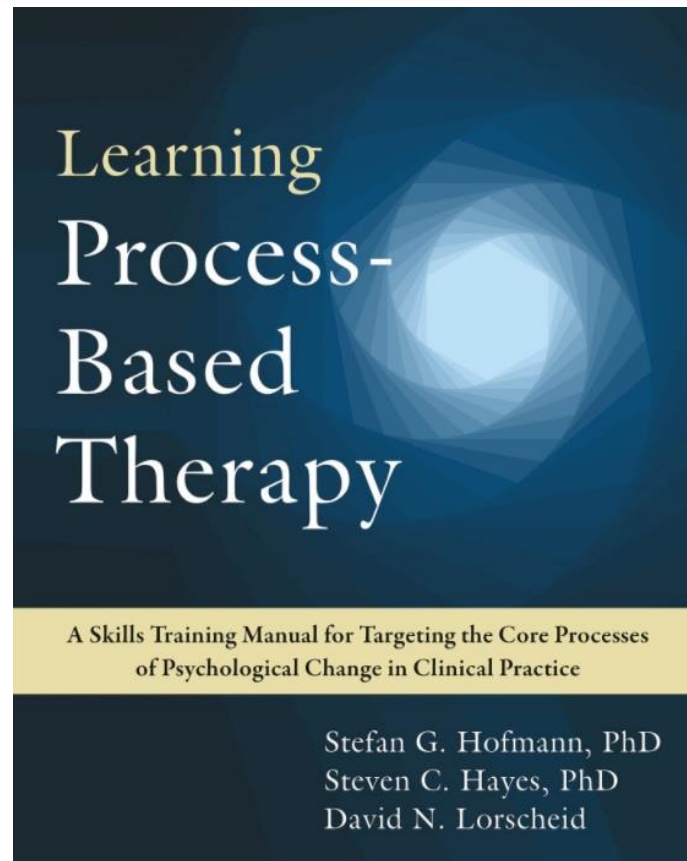
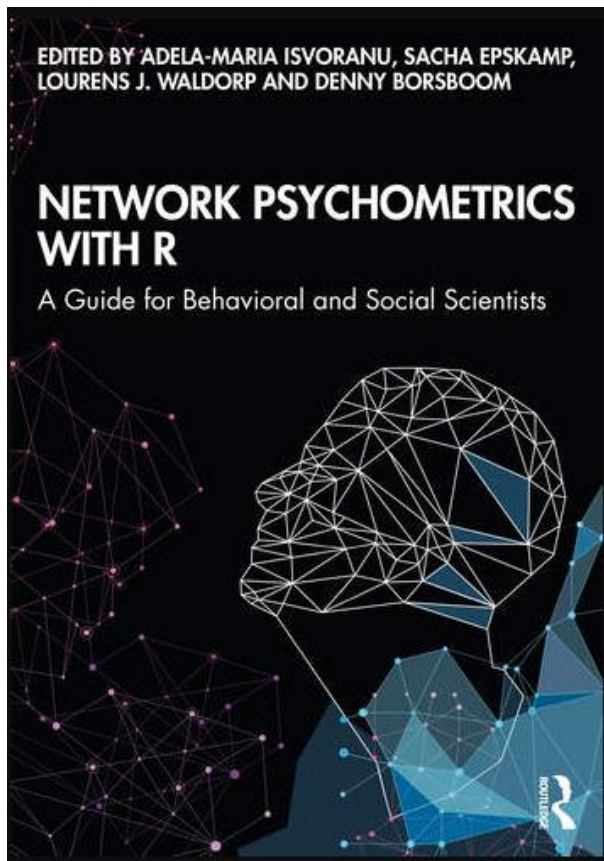
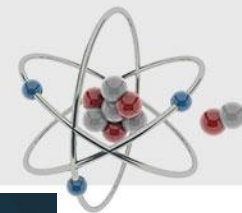


- これまでの会議で議論した以上のアイデアはまだない
- 論文や学会発表資料，翻訳書など，わかりやすい成果物が出たとき，今度は何が動くか（わくわく）

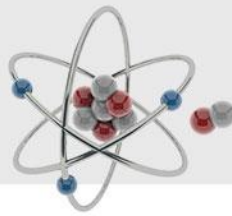
# ネットワーク研究の普及策



# 翻訳×2が進行中

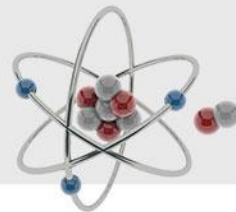


# 補足：Process-Based Therapy



- 「ネットワーク思考」をベースとした、様々なセラピーを統合するためのフレームワーク
  - 「診断名ごとの画一的介入」へのアンチテーゼ
  - 「患者1人1人に固有の複雑系」を捉え、テイラーメイドの介入を実施していく
- 認知行動療法のビッグネーム2名が提唱
  - Stefan HofmannとSteven Hayes
    - 出版社的にも「売れ線」
    - ⇒ 「ネットワークを勉強したい！」の需要増につながる

# ネットワーク班主催での学会発表



## ■ 日本心理学会 (9月) チュートリアル

- 横断データ解析にしぼった「心理ネットワークアプローチ入門」
  - 20～30分の動画×5を作成
- 学会終了後, 一般公開

## ■ 日本認知・行動療法学会 (9-10月) シンポ

- ACT (= Hayes創始のセラピー) の専門家などを指定討論に招き, 「PBTとは何か?」を議論する
- 臨床心理学内での協調路線に



**Thank you!**

